

5-2 第一専門診療部

消化器科

[原著論文]

1. Park SD (Arai K), Markowitz J, Pettei T, Weinstein T, Sison CP, Swiss SR, Levine J.: Failure to Respond to Hepatitis B Vaccine in Children with Celiac Disease. J Pediatr Gastroenterol Nutr 2007;44:431-435
2. Yokoyama S, Kasahara M, Morioka D, Fukuda A, Arai K, Mori T, Shioda Y, Nakagawa S, Shimizu N, Nakagawa A: Successful living-donor liver transplantation for Wilson's disease with hemophagocytic syndrome. Transplantation 2007;84(8):1067-1069

[総説]

1. 新井勝大: NSAIDs 起因性胃粘膜障害. 小児内科 2007; 39: 427-430

[学会発表]

1. 北里エリカ、松本務、高山ジョン一郎、田中藤樹、肥沼幸、新井勝大: 遷延性黄疸を契機に発見されたシトリン欠損の1例. 第9回調布小児科医研修会, 東京, 2007. 5. 17
2. 横山智至、森岡大介、福田晃也、笠原群生、本名敏郎、黒田達夫、新井勝大、肥沼幸、中川聡、清水直樹、森鉄也、小林信一、中川温子: 骨髄移植後の慢性肝GVHDに対する生体肝移植の一例. 第24回日本小児肝臓研究会, 東京, 2007. 7. 15
3. 西亦繁雄、肥沼幸、新井勝大、中川温子、滝正志、横田伸司: 生体肝移植にて救命しえたPVB19感染を伴った劇症肝炎の一例. 第24回日本小児肝臓研究会, 東京, 2007. 7. 15
4. 肥沼幸、西亦繁雄、新井勝大、笠原群生、森岡大介、福田晃也、横山智至、中川聡、清水直樹、飯島一誠、亀井宏一、中川温子、松井陽: 生体肝移植で救命しえた乳児劇症肝不全3例の検討. 第34回小児栄養消化器肝臓学会, 宮城, 2007. 10. 6
5. 肥沼幸、西亦繁雄、新井勝大、田中藤樹、香坂隆夫: 肝移植後に低血糖を認めた症例を含むNICCD6例の検討. 第34回小児栄養消化器肝臓学会, 宮城, 2007. 10. 6
6. 新井勝大、肥沼幸、西亦繁雄、清水俊明: 小児IBD症例におけるアザチオプリンの安全性の検討. 第34回小児栄養消化器肝臓学会, 宮城, 2007. 10. 6
7. 西亦繁雄、肥沼幸、新井勝大: 国立成育医療センターにおける過去一年間にクローン病と診断しえた8例. 第34回小児栄養消化器肝臓学会, 宮城, 2007. 10. 6
8. 福家辰樹、野村伊知郎、中谷夏織、大石拓、佐塚京子、後町法子、萬木晋、斎藤暁美、明石真幸、渡辺博子、成田雅美、須田友子、大矢幸弘、赤澤晃、新井勝大、伊藤直樹、伊藤裕司: 新生児アレルギー性腸炎2例における大腸内視鏡及び粘膜組織所見の検討.

第 57 回日本アレルギー学会秋季学術大会, 神奈川, 2007. 11. 1

9. 横山智至、福田晃也、森岡大介、笠原群生、新井勝大、肥沼幸、西亦繁雄、中川聡、清水直樹、中川温子：当院における小児劇症肝不全に対する生体肝移植. 第 37 回武蔵野小児肝臓病懇話会, 東京, 2007. 12. 4
10. 野村伊知郎、福家辰樹、中谷夏織、大石拓、佐塚京子、後町法子、斎藤暁美、明石真幸、成田雅美、須田友子、赤澤晃、大矢幸弘、伊藤直樹、伊藤裕司、新井勝大：非 IgE 性乳児ミルクアレルギー 新生児、乳児期の IgE 非依存型消化管アレルギー、10 名の検討と診断治療指針について. 第 44 回日本小児アレルギー学会総会, 愛知, 2007. 12. 8
11. 西亦繁雄、新井勝大、肥沼幸、西小森隆太：発熱を伴わない周期性腹痛を主訴とした家族性地中海熱の 1 女児例. 第 4 回東京小児感染免疫懇話会, 東京, 2008. 2. 14
12. 西亦繁雄、肥沼幸、新井勝大、中川温子、伊藤玲子：難治性偽膜性腸炎を呈した 1 乳児例. 第 4 回日本小児消化管感染症研究会, 東京, 2008. 2. 16
13. 新井勝大、西亦繁雄、肥沼幸、伊藤玲子、鋤柄小百合：メサラジンによる薬剤性膵炎と考えられた炎症性腸疾患の 2 小児例. 第 8 回日本小児 IBD 研究会, 東京, 2008. 2. 17

循環器科

[学会発表]

1. Ki-Sung Kim, Takayoshi Isoda, Miki Noya, Taiyu Hayashi, Yoshihiko Eryu, Takahiro Shindo, Masahide Kaneko “ Balloon Angioplasty for Juxtaductal Pulmonary Coarctation via Arterio-pulmonary Shunt “ Pediatric Interventional Cardiac Symposium, 2007. 7, Las Vegas, NV, USA
2. 金 基成、磯田 貴義、林 泰佑、江竜 喜彦、進藤 考洋、金子 正英. 「B T シェント急性血栓性閉塞に対するバルーン再開通術の経験」. 第 19 回日本 Pediatric Interventional Cardiology 研究会. 2008. 1 横浜
3. 林泰佑、金子正英、江竜喜彦、進藤考洋、金基成、磯田貴義、伊藤裕司、左合治彦 「当院で経験した先天性完全房室ブロックの 8 例」 第 14 回日本胎児心臓病研究会 2008 年 2 月 9 日 (東京)
4. 江竜 喜彦、磯田 貴義、進藤 考洋、横山 昌一郎、金 基成、金子 正英、石沢 瞭. 大動脈縮窄症術後にイソプロテノール負荷により血圧差を生じる症例への治療介入は必要か? バルーン血管形成術を施行した 3 例の経験 第 43 回日本小児循環器学会・学術集会、東京、2007. 7. 5
5. 江竜 喜彦、磯田 貴義、進藤 考洋、横山 昌一郎、金 基成、金子 正英、石沢 瞭、関口 昭彦. Fontan 手術 1 年後に蛋白漏出性胃腸症が発症し、ペースメーカー植込み

術によって改善がみられた徐脈性接合部調律を伴った多脾症候群の1例、第43回日本小児循環器学会・学術集会、東京、2007.7.5

6. 金子正英、江竜喜彦、進藤考洋、横山晶一郎、金基成、磯田貴義、石澤瞭、小泉沢、内山健太郎、松本務. 拡張型心筋症にて死亡した Vici 症候群の一例第 110 回日本小児科学会学術集会、京都 2007
7. 金子正英、林泰佑、江竜喜彦、進藤考洋、金基成、磯田貴義. 急性鉄中毒による心室頻拍に対して静注アミオダロンが有効だった一例 第 12 回日本小児心電学研究会、大阪 2007
8. 金子正英、林泰佑、江竜喜彦、進藤考洋、金基成、磯田貴義. 動脈管開存症コイル塞栓時にコイルとファイバーが絡み開心術にて回収した一例 第 19 回日本 Pediatric Interventional Cardiology 研究会、横浜 2008 年
9. 金子正英 キャリーオーバー患者の問題 ～先天性心疾患患者の場合～ 成育看護専門研修「成人看護コース」キャリーオーバーに関するパネルディスカッション、2008 年、国立成育医療センター

[総説]

1. 金 基成 「ファロー四徴症」(小児科診療ガイドライン—最新の治療指針—、五十嵐隆編集、総合医学社、2007 年 4 月 19 日発行)
2. 磯田 貴義 「動脈管開存症」(小児科診療ガイドライン—最新の治療指針—、五十嵐隆編集、総合医学社、2007 年 4 月 19 日発行)
3. 金子正英 図説臨床看護医学 DVD 版「小児」 5 章 疾患／③循環器疾患「心不全」、「不整脈」 2007 年
4. 磯田貴義、金子正英 成育医療研究委託費 17 公-5
「肺血流量増加型先天性心疾患に対する低酸素濃度ガス吸入療法の効果と安全性に関する基礎的・臨床的研究 分担研究報告書 「低酸素ガス吸入療法の効果判定のための評価法に関する研究」 2008 年

呼吸器科

[原著論文]

1. 海老名俊亮, 川崎一輝, 菊池信太郎, 中野孝子, 遠藤美紀, 樋口昌孝, 松本展明: 急速に無気肺をきたした気管支異物の 1 例. 日小児呼吸器会誌. 2007 ; 18 : 4-6
2. 川崎一輝, 遠藤美紀: 肺葉性肺気腫を呈した左気管気管支の 1 例. 日小児呼吸器会誌. 2008 ; 18 : 123-126

[総説]

1. 川崎一輝：呼吸困難. これだけは知っておきたい小児ケアQ&A. ナーシングケアQ&A 2007 ; 16 : 68-69
2. 川崎一輝：小児科気道感染症の胸部単純X線写真の読み方. こどもの感染症の診かた 2007 ; 6 : 9-10
3. 川崎一輝：BCG・ツベルクリン検査. 予防接種Q&A. 小児内科 2007 ; 39 : 1621-1622, 1623
4. 川崎一輝, 鶴野裕一, 小暮裕之：気道異物. 明解画像診断の手引き 2007 ; 69 : 1-12
5. 樋口昌孝：小児の睡眠時無呼吸症候群の概念・分類・診断. 小児内科 2008 ; 40 : 93-95

[著書]

1. 川崎一輝：先天性喘鳴. 小児科診療ガイドライン. 総合医学社, 2007 ; 1-3
2. 遠藤美紀, 川崎一輝：喘鳴. 保護者に伝えたいこどもの病気・検査のポイント100 中外医学社, 2007 ; 30-32

[学会発表]

1. 川崎一輝：小児呼吸器の画像診断（分野別シンポジウム）. 第110回日本小児科学会学術集会, 京都, 2007. 4. 21
2. 川崎一輝：小児の肺炎. 明解画像診断の手引き（教育セミナー）. 第110回日本小児科学会学術集会, 京都, 2007. 4. 21
3. 菊池信太郎, 遠藤美紀, 樋口昌孝, 川崎一輝：乳児のびまん性肺疾患における血清KL-6値の意義. 第110回日本小児科学会学術集会, 京都, 2007. 4. 21
4. 遠藤美紀, 菊池信太郎, 樋口昌孝, 川崎一輝：当科で経験する遷延性咳嗽の実態. 第110回日本小児科学会学術集会, 京都, 2007. 4. 21
5. 遠藤美紀, 菊池信太郎, 樋口昌孝, 川崎一輝：肺静脈還流異常を伴う先天性気管支閉鎖の3例. 第43回日本小児放射線学会, 東京, 2007. 6. 15
6. 川崎一輝, 遠藤美紀, 菊池信太郎, 樋口昌孝：舌根嚢胞の自然経過. 第2回日本小児耳鼻咽喉科学会, 仙台, 2007. 6. 24
7. 川崎一輝：小児呼吸器疾患の画像診断（特別講演）. 第111回日本小児科学会栃木県地方会, 足利, 2007. 7. 22
8. 川崎一輝：嚢胞性肺疾患の診断上の問題点（特別講演）. 第27回日本小児病理研究会, 東京, 2007. 9. 8
9. Kikuchi S, Kawasaki K, Endo M, Higuchi M: Are prenatally recognized cystic lung lesions directly connected with normal bronchial trees? European Respiratory

Society' s Annual Congress 2007, Stockholm, 2007.9.17

10. 川崎一輝： 小児呼吸器疾患の画像診断（特別講演）。 第112回日本小児科学会甲信地方会， 甲府， 2007.11.11
11. 川崎一輝： 嚢胞性肺疾患の診断プロセスどの時期にどこまで検査するか？-嚢胞性肺疾患の手術適応と手術時期（合同ワークショップ）。 第40回日本小児呼吸器疾患学会， 大阪， 2007.11.17
12. 菊池信太郎， 中野孝子， 遠藤美紀， 樋口昌孝， 川崎一輝： 好酸球性肺炎と気管支喘息の鑑別に難渋した1例。 第40回日本小児呼吸器疾患学会， 大阪， 2007.11.17
13. 菊池信太郎， 中野孝子， 遠藤美紀， 樋口昌孝， 川崎一輝， 黒田達夫， 本名敏郎， 松岡健太郎， 中川温子： 胎児期に発見され， 待期的に手術した嚢胞性肺疾患の診断。 第40回日本小児呼吸器疾患学会， 大阪， 2007.11.17
14. 中野孝子， 遠藤美紀， 菊池信太郎， 樋口昌孝， 川崎一輝， 黒田達夫， 本名敏郎， 松岡健太郎， 中川温子： 反復する呼気性喘鳴を主訴とした嚢胞性肺疾患の4例。 第40回日本小児呼吸器疾患学会， 大阪， 2007.11.17
15. 遠藤美紀， 中野孝子， 菊池信太郎， 樋口昌孝， 川崎一輝， 黒田達夫， 本名敏郎， 松岡健太郎， 中川温子： 肺炎を契機に診断された嚢胞性肺疾患は先天性か？ 第40回日本小児呼吸器疾患学会， 大阪， 2007.11.17
16. 中野孝子， 遠藤美紀， 菊池信太郎， 樋口昌孝， 川崎一輝， 黒田達夫， 森 治郎： 興味ある所見を呈した肺葉外肺分画症の1例。 第40回日本小児呼吸器疾患学会， 大阪， 2007.11.17
17. 長谷川久弥， 川崎一輝， 井上壽茂， 梅原 実， 高瀬真人： 先天性中枢性肺胞低換気症候群（オンディーヌの呪い）の全国アンケート調査（宿題報告）。 第40回日本小児呼吸器疾患学会， 大阪， 2007.11.18
18. 梅原 実， 長谷川久弥， 川崎一輝， 井上壽茂， 高瀬真人： 特発性肺ヘモジデロシスの全国アンケート調査（宿題報告）。 第40回日本小児呼吸器疾患学会， 大阪， 2007.11.18
19. 遠藤美紀， 中野孝子， 菊池信太郎， 樋口昌孝， 川崎一輝， 堤 義之， 野坂俊介， 今井丈英： 原発性気管支動脈蔓状血管腫と診断した1例。 第40回日本小児呼吸器疾患学会， 大阪， 2007.11.18
20. 樋口昌孝， 中野孝子， 遠藤美紀， 菊池信太郎， 川崎一輝： 左肺静脈閉鎖の3例。 第40回日本小児呼吸器疾患学会， 大阪， 2007.11.18
21. 川崎一輝： 呼吸器感染症の画像診断（ランチョンセミナー）。 第32回東日本小児科学会， 東京， 2007.11.23
22. 川崎一輝， 遠藤美紀， 菊池信太郎， 川崎一輝： 呼吸器科からみた小児の慢性咳嗽。 小児慢性咳嗽の診断と治療における問題点（シンポジウム）。 第44回日本小児アレルギー学会， 名古屋， 2007.12.9

アレルギー科

[原著論文]

1. Umehara K, Ohya Y, Kawakami N, Tsutsumi T, Fujimura M: Association of work-related factors with psychosocial job stressors and psychosomatic symptoms among Japanese pediatricians. *J Occup Health* 2007; 49: 467-481.
2. Miyamoto S, Miyake Y, Sasaki S, Tanaka K, Ohya Y, Matsunaga I, Yoshida T, Oda H, Ishiko O, Hirota Y; Osaka Maternal and Child Health Study Group. Fat and fish intake and asthma in Japanese women: baseline data from the Osaka Maternal and Child Health Study. *Int J Tuberc Lung Dis.* 2007 Jan;11(1):103-9.
3. Miyake Y, Ohya Y, Tanaka K, Yokoyama T, Sasaki S, Fukushima W, Ohfuji S, Saito K, Kiyohara C, Hirota Y; Osaka Maternal and Child Health Study Group. Home environment and suspected atopic eczema in Japanese infants: the Osaka Maternal and Child Health Study. *Pediatr Allergy Immunol.* 18:425-32. 2007
4. Miyake Y, Arakawa M, Tanaka K, Sasaki S, Ohya Y. Cross-sectional study of allergic disorders associated with breastfeeding in Japan: the Ryukyus Child Health Study. *Pediatr Allergy Immunol.* 2007 Aug;18(5):433-40.
5. Miyake Y, Sasaki S, Tanaka K, Ohya Y, Miyamoto S, Matsunaga I, Yoshida T, Hirota Y, Oda H; Osaka Maternal and Child Health Study Group. Fish and fat intake and prevalence of allergic rhinitis in Japanese females: the Osaka Maternal and Child Health Study. *J Am Coll Nutr.* 2007 Jun;26(3):279-87.
6. Orihara K, Narita M, Tobe T, Akasawa A, Ohya Y, Matsumoto K, Saito H. Circulating Foxp3+CD4+ cell numbers in atopic patients and healthy control subjects. *J Allergy Clin Immunol.* 120:960-2. 2007
7. Umehara K, Ohya Y, Kawakami N, Tsutsumi A, Fujimura M Association of work-related factors with psychosocial job stressors and psychosomatic symptoms among Japanese pediatricians. *J Occup Health* 49:467-481, 2007.
8. Tanaka K, Miyake Y, Arakawa M, Sasaki S, Ohya Y. Prevalence of asthma and wheeze in relation to passive smoking in Japanese children. *Ann Epidemiol.* 17:1004-10. 2007
9. Miyake Y, Arakawa M, Tanaka K, Sasaki S, Ohya Y. Tuberculin reactivity and allergic disorders in schoolchildren, Okinawa, Japan. *Clin Exp Allergy.* 2008; 38: 486-92.
10. Yoshida K, Sakurai Y, Kawahara S, Takeda T, Ishikawa T, Murakami T, Yoshioka A: Anaphylaxis to polyvinylpyrrolidone in povidone-iodine for impetigo contagiosum in a boy with atopic dermatitis. *Int Arch Allergy Immunol.* 2008;146(2):169-73.
11. 吉田俊明 松永一朗 織田肇 三宅吉博 佐々木敏 大矢幸弘 宮本正一 廣田良夫

資料 大阪府内の住宅における実生活環境下での科学物質（HCHO, NO₂, VOC, SVOC）による室内環境汚染 室内環境学会誌 vol19, 83-95, 2007.

12. 和田紀久 青谷裕文 中澤誠 藤村正哲 舟本仁一 恵谷ゆり 江原柏陽 大矢幸弘
日本小児科学会小児医療改革・救急プロジェクトチーム 厚生労働科学研究費補助金
（こども家庭総合研究事業）「小児科産科若手医師の確保・育成に関する研究」分担研究課題「病院小児科医の workforce 調査・分析」班 論策 病院小児科医の時間外診療と医師の時間外労働の現状について 日本小児科学会雑誌 111:893-898, 2007
13. 萬木晋、大矢幸弘 総説 気管支喘息の発症・治療と運動の関係についてのレビュー
日本小児アレルギー学会誌 第22巻:102-107, 2008.
14. 堀向健太, 堂本友恒, 美野陽一, 船田裕昭, 神崎晋, 木村光明: 新生児・乳児期早期ミルクアレルギー腸炎の4例. 小児科臨床 2008; 61: 251-256
15. 堀向健太, 神崎晋: 当科における食物負荷試験の検討. 日本小児科学会雑誌 2007; 111: 1202-1203
16. 堀向健太, 堂本友恒, 美野陽一, 船田裕昭, 村上潤, 辻靖博, 神崎晋: 新生児・乳児期早期遅延型ミルクアレルギーの4例. 日本小児科学会雑誌 2007; 111: 1202
17. 堀向健太: 伝染性紅斑後に発症した中毒性表皮壊死症(TEN)の1女児例. アレルギー 2007; 56: 343
18. 堀向健太, 中川ふみ, 神崎晋, 清水法男: CCAM肺葉切除術後にRSV細気管支炎に罹患、気胸を併発し持続ドレーナージを要した1例. 日本小児科学会雑誌 2007; 111: 597
19. 堀向健太, 神崎晋: 多種抗原IgE陽性・多種魚類アナフィラキシーの1例. 日本小児科学会雑誌 2007; 111: 596

[総説]

1. 大矢幸弘 〈食物アレルギーの治療と予防〉妊娠、乳児期の栄養と食物アレルギー 小児内科 2007; 39:618-622
2. 大矢幸弘 特集: よりよい小学校生活をおくるためのアドバイス アレルギー疾患 小児科 48:1115-1122, 2007
3. 大矢幸弘 特集①保育園・幼稚園・学校におけるアレルギー疾患の問題と対応 アレルギー疾患児の保護者の心のケアとは? 「アレルギー疾患児の保護者の心のケアはどのようにすれば良いですか?」 Q&Aでわかるアレルギー疾患3巻:341-343, 2007 丹水社
4. 大矢幸弘 特集: 外来アレルギー疾患ABC 外来における皮膚アレルギー診療 小児アトピー性皮膚炎診療: 治療の実際 小児科診療第70巻: 2007; 1297-1304
5. 大矢幸弘 アトピー性皮膚炎の治療 ステロイド軟膏 日本小児皮膚科学会雑誌 2007; 26:152-156,

6. 齋藤暁美 大矢幸弘 予防接種 Q&A アナフィラキシーへの対応として、何を院内に準備しておかなくてはならないでしょうか 小児内科 2007; 39:1594-1596.
7. 野村伊知郎、福家辰樹、大矢幸弘、外来アレルギー診療ABC 新生児、乳児期にみられるアレルギー性腸炎 (Food-protein induced enterocolitis syndrome)、小児科診療 2007. 7月号、
8. 齋藤暁美、大矢幸弘 : アナフィラキシーへの対応. 小児内科増大号 2007 ; 10:1594-1596
9. 小嶋なみ子: 小児アレルギー疾患における心理社会的要因と QOL との関連 Pediatric Allergy for Clinicians ; 2007 ; Vol3(3) ; pp18-21. エルゼビア・ジャパン
10. 成田雅美 : 子どもの食育を考える 食育の視点から食物アレルギーを考える. 母子保健情報 2007;56:68-72
11. 成田雅美: 【小児気管支喘息における患者教育】思春期からの患者教育 (アドヒアランスを向上させるために). Pediatric Allergy for Clinicians 2007 ; 4(1):18-20
12. 成田雅美 : 食物アレルギーにおける食事指導. 母子保健 2008;3:6-7

[著書]

1. 大矢幸弘 EBM による薬物療法の選択と使い方 3. 寛解維持期におけるステロイド外用薬の使い方 大矢幸弘(編集)・斉藤博久(監修)小児アレルギーシリーズ「アトピー性皮膚炎」診断と治療社 2007; 46-51
2. 大矢幸弘 私の症例—処方ファイルから 1. 乳児のアトピー性皮膚炎 大矢幸弘(編集)・斉藤博久(監修) 小児アレルギーシリーズ「アトピー性皮膚炎」診断と治療社 2007; 76-81
3. 大矢幸弘 私の症例—処方ファイルから 1. 幼児から学童期前半のアトピー性皮膚炎 大矢幸弘(編集)・斉藤博久(監修)小児アレルギーシリーズ「アトピー性皮膚炎」診断と治療社 2007; 76-81
4. 大矢幸弘 日常生活で行う包括的治療とケア 1. ストレス・マネジメントと行動療法 大矢幸弘(編集)・斉藤博久(監修)小児アレルギーシリーズ「アトピー性皮膚炎」診断と治療社 2007; 98-103
5. 大矢幸弘 乳幼児期の食育 ～食育の観点から子育てを考える～ 4. 乳幼児の食物アレルギー・・・食育の観点から・・・ 編集 高橋孝夫 加藤則子 小児保健シリーズ No. 61 日本小児保健協会 2007; 22-29,
6. 野村伊知郎、小児アレルギーシリーズ、アトピー性皮膚炎 (大矢幸弘編集、齋藤博久監修)、解説 VI 病態に関するメカニズム、5. ブドウ球菌とアトピー性皮膚炎、診断と治療社 2007;176-181

[報告書、その他]

1. 大矢幸弘 前川貴伸： 気管支喘息発作臨床スコアの選択と妥当性の評価. 平成 19 年度厚生労働科学研究費補助金医療技術実用化総合研究事業「小児気管支喘息重症発作に対するイソプロテノール持続吸入を対照とした多施設共同盲検ランダム化比較試験」平成 19 年度研究報告書, 2008:13-16.
2. 大矢幸弘 小児及び思春期の気管支喘息患者の重症度に応じた健康管理支援、保健指導の実践及び評価手法に関する調査研究報告書 2007 年度 2007;1-38
3. 大矢幸弘 窪田泰夫 星岡明 細谷律子 坂本なほ子 成田雅美 小嶋なみ子 宮崎晃子 Riazi Afsane: アトピー性皮膚炎患者の QOL 尺度開発に関する研究 平成 19 年度厚生労働科学研究費補助金「アトピー性皮膚炎の症状の制御および治療法の普及に関する研究」平成 19 年度研究報告書 2008;387-389
4. 大矢幸弘: 妊娠前、妊娠中および生後 4 ヶ月の生活環境と 2 歳 6 ヶ月時アレルギー疾患発症との関連 大阪母子保健研究 平成 19 年度厚生労働科学研究費補助金「衛生仮説を含めたアレルギー性疾患の発症関連環境要因の解明に関する前向きコホートおよび横断研究」平成 19 年度研究報告書 2008;405-407
5. 大矢幸弘 赤澤晃 渡辺博子 勝沼俊雄 近藤直実 小嶋なみ子 成田雅美 斎藤暁美 明石真幸 宮崎晃子: 小児気管支喘息患者の養育者の QOL 尺度（臨床用）の開発研究 平成 19 年度厚生労働科学研究費補助金「気管支喘息の有症率、ガイドラインの普及効果 QOL に関する全年齢全国調査に関する研究」平成 19 年度研究報告書 2008;224-226
6. 大矢幸弘: アトピー性皮膚炎コントロールのコツ 平成 19 年度免疫アレルギー疾患予防・治療研究推進事業報告書 2008;16-22
7. 大矢幸弘 萬木晋 明石真幸: 喘息児における運動量と体脂肪率の評価に関する研究 平成 19 年度日本体育協会スポーツ医・科学研究報告 日本の子どもにおける身体活動・運動の行動目標設定と効果の検証 第 2 報 2008;34-35
8. 森川昭廣（司会） 荒川浩一 大矢幸弘 手塚純一郎 座談会「小児喘息診療の問題点」呼吸 2008; 27:p128-141
9. 野村伊知郎ほか、新生児乳児アレルギー疾患研究会作成、新生児、乳児消化管アレルギー（Food Protein-Induced Enterocolitis Syndrome）診断治療指針、<http://www.nch.go.jp/imal/FPIES/icho/index.html>
10. 野村伊知郎: 新生児乳児期発症アレルギー性胃腸炎の早期診断、重症化予防に関する研究、平成 20 年度国立病院機構共同臨床研究、研究計画書（平成 19 年度報告書）
11. 野村伊知郎: 第 3 回新生児乳児アレルギー疾患研究会（主宰）、新生児乳児消化管アレルギーと血清蛋白喪失型アトピー性皮膚炎の診断治療指針作成、2008. 1. 19, 東京国際フォーラム
12. 野村伊知郎: 好酸球性食道炎におけるエオタキシン 3 と疾患特有の遺伝子発現プロファイル、海外ジャーナル最前線（監修）、Pediatric Allergy for Clinicians、Vol.3,

No2, 56-57p, 2007 エルゼビアジャパン

13. 野村伊知郎: 早産児または低出生体重児における食物アレルギーの発症リスク, 海外ジャーナル最前線 (監修)、Pediatric Allergy for Clinicians、Vol. 3, No3, 2007 エルゼビアジャパン
14. 野村伊知郎: フラグリン遺伝子とアトピー性皮膚炎の関連について、海外ジャーナル最前線 (監修)、Pediatric Allergy for Clinicians、Vol. 3, No4, 2007 エルゼビアジャパン
15. 堀向健太, 大矢幸弘, 赤澤晃: 気管支喘息の有症率、ガイドラインの普及効果と QOL に関する全年齢全国調査に関する研究, 平成 19 年度 免疫アレルギー疾患予防・治療研究推進事業報告書, 2008;71-73

[学会発表]

1. Ohya Y, Watanabe H, Kojima N, Katsunuma T, Kondo N, Akasawa A. Development of parental quality of life scale for pediatric asthma specialist clinics to elucidate factors influenced by asthma symptoms. 14th Annual conference of international society of quality of life research. Toronto, 2007.10.11
2. Ohya Y, Kubota Y, Hoshioka A, Hosoya R, Sakamoto N, Narita M, Miyazaki A, Kojima N: Impact of atopic dermatitis on the quality of life in Japanese patients. World Allergy Congress. Bangkok, Thailand, 2007.12.5.
3. Fukuie T, Nomura I, Nakatani K, Gocho N, Saito A, Akashi M, Narita M, Akasawa A, Ohya Y, Arai S, Ito N, Ito Y: Food-protein induced enterocolitis in neonate: summary of 10 patients. Annual meeting of American academy of allergy asthma and immunology Philadelphia, 2008.3.18.
4. Nomura I, Leung YM, Satio A, Fukuie T, Akashi M, Suda T, Narita M, Akasawa A, Ohya Y. : Severe protein-loss in atopic dermatitis: summary of 50 patients. Annual meeting of American academy of allergy asthma and immunology Philadelphia, 2008.3.18.
5. Ohya Y: Antibiotics during pregnancy is a risk factor for child's eczema and wheezing. Annual meeting of American academy of allergy asthma and immunology Philadelphia, 2008.3.18.
6. 大矢幸弘 パルミコート吸入液の位置付けと現状の課題 US-Japan Asthma Summit 2007 東京, 2007.4.6
7. 大矢幸弘 ランチョンセミナー「小児気管支喘息における抗アレルギー薬の効果的な使い方」日本小児難治喘息アレルギー疾患学会 東京 2007.5.26
8. 大矢幸弘 小児アレルギー疾患と行動療法 四国小児アレルギー研究会 高知 2007.5.26

9. 大矢幸弘 乳幼児期の食育 ～食育の観点から子育て支援を考える～ 第24回小児保健セミナー 東京 2007.6.10
10. 大矢幸弘 乳幼児のアレルギー診療 「アトピー性皮膚炎への対応」 小児喘息・アレルギーセミナー2007 東京 2007.6.21
11. 大矢幸弘 小児診療のコツ「小児患者への行動医学的アプローチ」 第4回東京都東地区耳鼻咽喉科地域医療研究会 東京 2007.6.30
12. 大矢幸弘 ランチョンセミナー1「アトピー性皮膚炎の治療」ステロイド軟膏 第31回日本小児皮膚科学会 福岡 2007.7.7
13. 大矢幸弘 パネルディスカッション 小児における抗ヒスタミン薬のエビデンス・使用法「小児科医の立場からの抗ヒスタミン薬の使用法に関する考察」 第6回皮膚科EBMフォーラム 札幌 2007.7.14
14. 大矢幸弘 「行動医学を応用した喘息患者指導」第9回鹿児島喘息患者指導セミナー 鹿児島 2007.7.21
15. 大矢幸弘 特別講演「アトピー性皮膚炎の治療とスキンケア」 第6回朝霞地区小児科医会講習会 埼玉県新座市 2007.7.25
16. 大矢幸弘 学会企画シンポジウム「医療にかかわる心理資格について」第20回日本健康心理学会 東京 2007.9.1
17. 大矢幸弘 特別講演「小児気管支喘息最新の話題—乳幼児における治療と今後の展望」小児気管支喘息講演会 東京 2007.9.6
18. 大矢幸弘 特別講演「小児喘息と患者指導」第7回奈良県喘息フォーラム 奈良 2007.9.8
19. 大矢幸弘 アレルギー診療と行動医学 東京女子医科大学小児科講演会 東京 2007.9.26
20. 大矢幸弘 特別講演「アトピー性皮膚炎の治療とスキンケア」 日本医師会生涯教区講座 狭山市・入間市医師会学術講演会 狭山市 2007.10.24
21. 大矢幸弘、窪田泰夫、星岡明、細谷律子、坂本なほ子、小嶋なみ子、宮崎晃子、成田雅美 日本におけるアトピー性皮膚炎疾患特異的 QOL 評価尺度の開発 第57回日本アレルギー学会秋季学術大会 横浜 2007.11.1
22. 大矢幸弘 イブニングシンポジウム「痒くて眠れない・・・」眠気は痒みを抑えるのか～患者への適切な対応とは～ 「患者とのコミュニケーションが治療に及ぼす影響～行動医学の観点から～」 第57回日本アレルギー学会秋季学術大会 横浜 2007.11.1
23. 中谷夏織 成田雅美 佐塚京子 大石拓 後町法子 福家辰樹 萬木晋 津村由紀 斉藤暁美 明石昌幸 渡辺博子 須田友子 野村伊知郎 海老澤元宏 赤澤晃 大矢幸弘 小児の食物アレルギーの診断における RAST, HRT, SPT の有用性について 第57回日本アレルギー学会秋季学術大会 横浜 2007.11.1
24. 三宅吉博 田中景子 佐々木敏 清原千香子 大矢幸弘 福島若葉 横山徹爾 廣田

- 良夫 母乳と喘鳴、喘息のリスク：大阪母子保健研究 第 57 回日本アレルギー学会秋季学術大会 横浜 2007. 11. 1
25. 田中景子 松永一朗 三宅吉博 吉田俊明 大矢幸弘 佐々木敏 織田肇 廣田良夫 室内空气中ホルムアルデヒド暴露とアレルギー疾患との関連：大阪母子保健研究 第 57 回日本アレルギー学会秋季学術大会 横浜 2007. 11. 1
26. 福家辰樹 野村伊知郎 中谷夏織 大石拓 佐塚京子 後町法子 萬木晋 齊藤暁美 明石昌幸 渡辺博子 成田雅美 須田友子 大矢幸弘 赤澤晃 新井勝大 伊藤直樹 伊藤裕司 新生児アレルギー性腸炎 2 例における大腸内視鏡及び粘膜組織所見の検討 第 57 回日本アレルギー学会秋季学術大会 横浜 2007. 11. 2
27. 成田雅美 中谷夏織 佐塚京子 宮崎晃子 齊藤暁美 須田友子 野村伊知郎 森澤豊 渡辺博子 二村昌樹 益子育代 赤澤晃 大矢幸弘 小児気管支喘息患者のアドヒアランスに影響する因子についての研究（第 1 報）治療動機ステージに基づく解析 第 57 回日本アレルギー学会秋季学術大会 横浜 2007. 11. 3
28. 大矢幸弘 小嶋なみ子 宮崎晃子 明石昌幸 二村昌樹 井上徳浩 シンポジウム 9 症例から学ぶアレルギー疾患 心因性・難治性喘息に対する行動療法 第 44 回日本小児アレルギー学会 名古屋 2008. 12. 8
29. 大矢幸弘 Jonathan Batchelor, Hywel Williams 野村伊知郎 成田雅美 明石昌幸 須田友子 小嶋なみ子 赤澤晃 医療情報信頼性チェックツール DISCERN 日本語版の開発と日本のアレルギー情報 第 44 回日本小児アレルギー学会 名古屋 2008. 12. 8
30. 明石昌幸 成田雅美 後町法子 中谷夏織 福家辰樹 萬木晋 齊藤暁美 須田友子 野村伊知郎 海老澤元宏 赤澤晃 大矢幸弘 シンポジウム 3 食物アレルギー診療の新しい展開 食物アレルギーにおける経口減感作療法の現状と問題点 第 44 回日本小児アレルギー学会 名古屋 2008. 12. 8
31. 野村伊知郎 福家辰樹 中谷夏織 大石拓 佐塚京子 後町法子 齊藤暁美 明石昌幸 成田雅美 須田友子 赤澤晃 大矢幸弘 伊藤直樹 伊藤裕司 新井勝大 新生児乳児期の IgE 非依存型消化管アレルギー 10 名の検討と診断治療指針について 第 44 回日本小児アレルギー学会 名古屋 2008. 12. 8
32. 渡辺博子 小嶋なみ子 明石昌幸 大矢幸弘 赤澤晃 海老澤元宏 小田嶋博 藤澤隆夫 平野幸子 小児気管支喘息予後調査～経過報告～ 第 44 回日本小児アレルギー学会 名古屋 2008. 12. 8
33. 益子育代 福家辰樹 中谷夏織 後町法子 林啓一 大矢幸弘 小児アトピー性皮膚炎患者の適切な軟膏塗布量の検討 第 44 回日本小児アレルギー学会 名古屋 2008. 12. 9
34. 井上徳浩 松本美江子 小嶋なみ子 二村昌樹 青田明子 齊藤暁美 明石昌幸 成田雅美 野村伊知郎 吉川弘二 赤澤晃 大矢幸弘 不安と喘息発作のレスポネン ト条件付けを系統的脱感作した重症喘息の一例 第 44 回日本小児アレルギー学会 名

古屋 2008. 12. 9

35. 大矢幸弘 特別講演「行動医学に基づく患者教育」 第6回下関小児臨床アレルギー懇話会 2008. 2. 1 下関
36. 大矢幸弘 アトピー性皮膚炎治療の現場から 第3回金沢区小児科医会学術講演会 横浜市 2008. 3. 6
37. 後町法子、佐塚京子、大石拓、中谷夏織、福家辰樹、萬木晋、明石真幸、齋藤暁美、成田雅美、須田友子、野村伊知郎、宮崎晃子、小嶋なみ子、大矢幸弘、赤澤晃：当院職員におけるラテックスアレルギーの意識調査. 第12回ラテックスアレルギー研究会 広島 2007. 7. 29
38. 野村伊知郎：第1回相模原臨床アレルギーセミナー、アトピー性皮膚炎への対応と軟膏療法の基本について、2007. 8. 12、パシフィコ横浜アネックスホール
39. 野村伊知郎：第44回日本小児アレルギー学会、シンポジウム6、アトピー性皮膚炎の最新情報、アトピー性皮膚炎と innate immunity、2007. 12
40. 野村伊知郎、福家辰樹、中谷夏織、吉田幸一、堀向健太、大石拓、佐塚京子、後町法子、齋藤暁美、明石真幸、成田雅美、須田友子、赤澤晃、大矢幸弘、伊藤直樹、伊藤裕司、新井勝太、新生児、乳児期の IgE 非依存型消化管アレルギー10名の検討と診断治療指針について、第44回日本小児アレルギー学会ミニシンポジウム
41. 野村伊知郎：第27回臨床アレルギー懇話会、アトピー性皮膚炎ーアレルギーと感染のクロストーク、2007. 11. 22、慈恵医科大学講堂
42. 齋藤暁美、野村伊知郎、後町法子、中谷夏織、福家辰樹、萬木 晋、明石真幸、須田友子、渡辺博子、成田雅美、赤澤 晃、大矢幸弘：低蛋白血症を伴う重症アトピー性皮膚炎 33 例の検討、日本アレルギー学会 春期臨床大会 2007 年 6 月
43. 福家辰樹、野村伊知郎、中谷夏織、小島令嗣、後町法子、萬木 晋、齋藤暁美、明石真幸¹⁾、渡辺博子、須田友子、成田雅美、大矢幸弘、赤澤 晃、海老澤元宏、Food protein-induced enterocolitis syndrome 7 症例の検討および本邦報告例における臨床像について、日本アレルギー学会 春期臨床大会、2007 年 6 月
44. 二村昌樹：アトピー性皮膚炎のスキンケア教育入院. 北知多アレルギー談話会，愛知， 2007. 5. 24
45. 二村昌樹、後藤志歩、高岡有理、伊藤浩明、安本卓也、三宅香織、鶴田淳一、林啓一、大矢幸弘、益子育代：乳幼児アトピー性皮膚炎の短期教育入院の試み. 第9回子ども心・体と環境を考える会，東京， 2007. 11. 23
46. 二村昌樹：食物負荷試験の実施状況についてのアンケート調査報告. 第44回日本小児アレルギー学会，名古屋， 2007. 12. 8
47. 二村昌樹、伊藤浩明：食物負荷試験ー専門医アンケート結果報告について. 第8回食物アレルギー研究会，東京， 2008. 2. 2
48. 二村昌樹、平山美香、伊藤浩明、森下雅史：小麦の微量混入でアナフィラキシーシ

- ックをきたし、アドレナリン自己注射薬を使用した1幼児例. 第242回日本小児科学会東海地方会, 三重, 2008.2.11
49. 二村昌樹: アンケート調査による食物経口負荷試験の現状. 第9回愛知小児アレルギー研究会, 名古屋, 2008.3.22
50. 齋藤暁美、野村伊知郎、後町法子、中谷夏織、福家辰樹、萬木晋、明石真幸、須田友子、渡辺博子、成田雅美、赤澤晃、大矢幸弘: 低蛋白血症を伴う重症アトピー性皮膚炎33例の検討, 第19回日本アレルギー学会春季臨床大会, 横浜, 2007.6.12.
51. 齋藤暁美、小嶋なみ子、成田雅美、大矢幸弘: アトピー性皮膚炎症例に伴いやすい二次的弊害について, 第9回子どもの心と体と環境を考える会学術大会, 東京, 2007.11.23.
52. 小嶋なみ子・大矢幸弘・渡辺博子・勝沼俊雄・近藤直実・赤澤晃・成田雅美・明石真幸・齋藤暁美・宮崎晃子 気管支喘息患児を持つ養育者に特異的なQOL調査票開発研究 第26回慈恵会医科大学臨床懇話会 東京 2007.07.12
53. 小嶋なみ子 鬱症状を伴う適応障害への認知・行動療法の適用—面接過程から見えてきた異文化の壁とその行動・認知の変容により症状が消失した一事例— 日本心理臨床学会第26回大会 東京 2007.09.27
54. 小嶋なみ子 医療心理学の新展開: チーム医療における医療心理学の最前線: 小児医療 第71回日本心理学会 東京 2007.09.18
55. 小嶋なみ子・宮崎晃子・大矢幸弘 小児気管支喘息患者の治療行動に対する行動療法的介入の効果 神戸 第33回日本行動療法学会 2007.12.01
56. 小嶋なみ子 難治性喘息と診断された男児への行動療法的介入—条件づけにより入院を繰り返したと考えられる小児気管支喘息の一事例— 行動療法コロキウム in MIYAZAKI 宮崎 2008.03.07
57. 大石拓, 小倉由紀子, 小倉英郎: タンニン酸アルブミンでアナフィラキシーを起こした3歳男児の一例. 第19回四国小児アレルギー研究会, 高知, 2007.5.27
58. 大石拓, 小倉由紀子, 小倉英郎: タンニン酸アルブミンでアナフィラキシーを起こした3歳男児の一例. 第19回日本アレルギー学会春季臨床大会, 神奈川, 2007.6.11
59. 大石拓, 玉城渉, 福井真澄, 大石尚文, 白石泰資, 小倉英郎: 重症心身障害病棟における感染予防対策 当院重症心身障害児(者)病棟でのノロウイルス集団感染から考えられたこと—いかにその流行を阻止するか. 第33回日本重症心身障害学会学術集会, 高知, 2007.9.27
60. 吉田幸一, 櫻井嘉彦, 小川浩平, 米川真輔, 林環, 福田和由, 藤田百合, 西口将之, 嶋緑倫, 吉岡章: 多発脳梗塞をおこしたbow hunter's strokeの1男児例. 第110回日本小児科学会学術集会, 京都, 2007.4.22
61. 成田雅美, 中谷夏織, 佐塚京子, 宮崎晃子, 齋藤暁美, 須田友子, 野村伊知郎, 森澤

豊, 渡辺博子, 二村昌樹, 益子育代, 赤澤晃, 大矢幸弘 症に気管支喘息患者のアドヒアランスに影響する因子についての研究 (第1報) 治療動機ステージに基づく解析 第57回日本アレルギー学会秋季学術大会, 横浜, 2007. 11. 3

膠原病・感染症科

[原著論文]

1. Toshinao Kawai: Diprotin A Infusion into Nonobese Diabetic/Severe Combined Immunodeficiency Mice Markedly Enhances Engraftment of Human Mobilized CD34 Peripheral Blood Cells. *Stem Cells and Development* 2007;16:361-370.
2. Koichi Kamei, Atsuko Nakagawa, Yasufumi Otsuka, Makiko Nakayama, Shinichi Kobayashi, Kentaro Matsuoka, Kazumoto Iijim: Chronic glomerulonephritis associated with IgG subclass deficiency. *Pediatr Nephrol* 2007; 22: 1229-1234.
3. Shinichi Kobayashi, Shizuko Murayama, Osamu Tatsuzawa, Goro Koinuma, Kazuki Kawasaki, Chikako Kiyotani, Masaaki Kumagai: Successful treatment with micafangin to X-SCID having high level of serum immunoglobulins with aspergillus pneumonia. *Eur J Pediatr* 2007; 166: 207-210.
4. Shinichi Kobayashi, Shizuko Murayama, Sayaka Takanashi, Kumiko Takahashi, Sachiko Miyatsuka, Tomoko Fujita, Sadato Ichinohe, Yuichi Koike, Toshitaka Kohagizawa, Hirosumi Mori, Yasushi Deguchi, kaoru Higuchi, Hiroaki Wakasugi, Tatsuya Sato, Yasuyuki Wada, Masato Nagata, Nobuhiko Okabe and Osamu Tatsuzawa: Clinical features and prognoses of 23 patients with chronic granulomatous disease (CGD) followed for 21 years by a single hospital in Japan. *Eur J Pediatr* 2008; inpress

[総説]

1. 小林信一: 小児の気道感染症-基礎と臨床 急性扁桃炎の原因と所見. *小児内科* 2007; 39: 59-62.
2. 小林信一: 小児科診療ガイドライン 若年性特発性関節炎. 総合医学社 2007;390-393.
3. 小林信一: 国立成育医療センターにおける感染制御活動. *感染制御* 2007;3:521-526.
4. 小林信一: ヒトパルボウイルス B19 感染と膠原病類似症状. *小児内科* 2008;40: 567-569.
5. 小林信一: 真菌感染症. *小児科* 2008; 49: 655-660.

[講演]

1. 村山静子、小林信一、立澤幸：治療に難渋する Weber-Christian 病の 1 例. 第 17 回小児リウマチ研究会 2007/9/28 横浜
2. 村山静子、小林信一、立澤幸：黒色真菌による肺肉芽腫、皮下膿瘍をきたした X-CGD の一例. 第 39 回小児感染症学会 2007/11/11 横浜
3. 村山静子、小林信一、立澤幸：胃幽門狭窄に対しステロイド局注を施行し著効した CGD の一例. 第 15 回食細胞機能異常症研究会 2007/12/14 東京
4. Toshinao Kawai: Transient expression of WHIM-type mutant CXCR4 human hematopoietic stem cells mediated by integration defective lentivirus vector enhances engraftment in the NOD/SCID mouse xenograft model. アメリカ遺伝子治療学会 2007/5/30 USA
5. Toshinao Kawai: TRANSIENT EXPRESSION OF WHIM-ASSOCIATED MUTANT CXCR4 BY TRANSDUCED HUMAN HEMATOPOIETIC STEM CELL ENHANCES THE ENGRAFTMENT IN NOD/SCID MICE XENOGRAFT MODEL 第 13 回日本遺伝子治療学会 2007/6/28 名古屋
6. 河合利尚：NOD/SCID マウスを用いたヒト造血幹細胞移植モデルにおける SDF1-CXCR4 作用の生着率増強効果. 日本造血幹細胞移植学会 2008/2/29 札幌

内分泌代謝科

[原著論文]

1. Morioka D, Kasahara M, Horikawa R, Yokoyama S, Fukuda A, Nakagawa A: Efficacy of living donor liver transplantation for patients with methyl malonic acidemia. Am J Transplant. 2007;7(12):2782-2787
2. Shinagawa T, Horikawa R, Isojima T, Naiki Y, Tanaka T, Katsumata N: Nonclassic steroid 21-hydroxylase deficiency due to a homozygous V281L mutation in CYP21A2 detected by the neonatal mass-screening program in Japan. Endocr J. 2007;54(6):1021-1025
3. Katsumata N, Horikawa R, Tanaka T: Novel missense mutation in the P-box of androgen receptor in a patient with androgen insensitivity syndrome. Endocr J 2008;55(1):225-228
4. Yoshihara A, Tanabe A, Saito H, Hizuka N, Ishizawa A, Horikawa R, Takano K: A case of malignant pheochromocytoma with Holt-Oram syndrome. Endocr J 2008;55(1):153-159
5. Tanaka T, Horikawa R, Naiki Y, Yokoya S, Satoh M: Prediction of pubertal growth at start of estrogen replacement therapy in Turner syndrome. Clin Pediatr

Endocrinol 2008;17(1):9-15

6. 田中敏章, 本条成子, 内木康博, 堀川玲子: 低身長を主訴に内分泌代謝外来を受診した新患の検討. 日本成長学会雑誌 2007;13(1):11-19
7. 綾部匡之, 阿部清美, 曾根田瞬, 藤本陽子, 磯島豪, 内木康博, 堀川玲子: CBZ 内服中止でコントロールの改善した CYP21A2 異常症の 1 例. 日本内分泌学会雑誌 2007;83 特集:182-183
8. 吉原愛, 齋藤洋, 田辺晶代, 肥塚直美, 堀川玲子, 高野加寿恵: Holt-Oram 症候群に合併した悪性褐色細胞腫の一例. 日本内分泌学会雑誌 2007;83 特集:171-173
9. 高良洋平, 槇田紀子, 仁科祐子, 代田翠, 高野幸路, 飯利太朗, 福本誠二, 堀川玲子, 藤田敏郎: 先天性副腎皮質過形成に難治性バセドウ病を合併し、治療に苦慮した一例. 日本内分泌学会雑誌 2007;83 特集:22-28
10. 磯島豪, 内木康博, 細川真一, 中村知夫, 伊藤裕司, 堀川玲子 新生児期に Cushing 症候群を発症した Beckwith-Wiedemann 症候群の一例. ホルモンと臨床 56 増刊号:124-129(2008)

[総説]

1. 堀川玲子: 症例から学ぶ内分泌疾患の Pitfall 治療の必要ない思春期早発症. 小児内科 2007;39(5):766-770
2. 磯島豪, 堀川玲子: 症例から学ぶ内分泌疾患の Pitfall 乳幼児の心因性多飲. 小児内科 2007;39(5):697-700
3. 堀川玲子: KIGS Japan Data ① 患者背景 成長ホルモン治療データベース 20 周年 -Global KIGS の歩み-. ホルモンと臨床 2007;55(8):37-42
4. 堀川玲子: 内科外来でみるウィメンズ・ヘルス 女児の訴えるおっぱいの痛みやしこり. medicina 2007;44(13):2204-2205
5. 堀川玲子: 小児がん経験者の晩期障害フォローアップ. ホルモンと臨床 2007;55(12):1151-1155
6. 堀川玲子: 思春期早発症の治療でリュープリンは 1 か月に 1 回投与となっているがどのくらいずれても問題ないのか. 小児内科 2008;40(2):327-328

[著書]

1. 堀川玲子: 思春期早発症. 成瀬光栄, 平田結喜緒, 島津章 (編集), 内分泌代謝専門医ガイドブック, 診断と治療社. 2007;216-219
2. 堀川玲子: 思春期における 1 型・2 型糖尿病の管理. 野田光彦 (編集), 糖尿病臨床スキップ, 南江堂, 2007;271-279
3. 堀川玲子: 低身長. 池田宇一, 大越教夫, 横田千津子 (監修・編集), 病気と薬パーフェクト BOOK 2008, 南山堂, 2008;101-103

4. 堀川玲子: 成長ホルモン分泌不全性低身長症. 池田宇一, 大越教夫, 横田千津子 (監修・編集), 病気と薬パーフェクトBOOK 2008, 南山堂, 2008;984-987
5. 堀川玲子: D 小児内分泌疾患. 近藤達也, 山西文子 (監修), 松下竹次, 萬弘子 (編集) 生活習慣病ナーシング7 小児生活習慣病 メヂカルフレンド社 2007:27-31
6. 堀川玲子: 小児の肥満は生活習慣病につながるか? 小児科研修の素朴な疑問に答え ます 上村克徳, 真部淳 (編集) メディカル・サイエンス・インターナショナル 2007:48-50

[報告書、その他]

1. 堀川玲子, 田中敏章, 安達昌功: 小児成長ホルモン分泌不全症の新規診断法に関する研究— 小児における GHRP-2 負荷試験カットオフ値の検討—. 平成 19 年度厚生労働科学研究費補助金「難治性疾患克服研究事業間脳下垂体機能障害に関する調査研究」, 平成 19 年度研究報告書, 2008 ; 51-54
2. 堀川玲子: 性徴・成熟障害を招く内分泌疾患の遺伝子型・表現型解析. 平成 19 年度終了生育医療研究委託事業「成長・成熟障害の包括的遺伝子診療システムの構築」, 平成 19 年度研究報告書, 2008

[学会発表]

1. Naiki Y, Horikawa R: Effects of intravenous pamidronate treatment for children with osteogenesis imperfecta. 89th Annual Meeting of Endocrine Society, Toronto, 2007. 6. 3
2. Naiki Y, Horikawa R, Tanaka T: Reevaluation of Growth Potential Method in Boys with Delayed Pubertal Development. 11th International Congress of Auxology, Tokyo, 2007. 9. 11
3. 綾部匡行, 内木康博, 堀川玲子, 田中藤樹, 奥山虎之, 深尾敏幸, 近藤直実, 小林弘典, 長谷川有紀, 山口清次: β ケトチオラーゼ欠損症の 7 ヶ月乳児例. 第 110 回日本小児科学会学術集会, 京都, 2007. 4. 22
4. 内木康博, 阿部清美, 曾根田瞬, 堀川玲子: 急性腎不全を呈した糖尿病ケトアシドーシスの 2 例. 第 50 回日本糖尿病学会年次集会, 仙台, 2007. 5. 26
5. 堀川玲子, 内木康博, 田中敏章: 胎児発育不全性低出生体重児における糖尿病 成長ホルモン治療との関連. 第 50 回日本糖尿病学会年次集会, 仙台, 2007. 5. 24
6. 松浦信夫, 雨宮伸, 杉原茂孝, 横田行史, 田中敏章, 佐々木望, 浦上達彦, 菊地信行, 宮本茂樹, 大木由加志, 堀川玲子, 小林浩司, 菊地透: 小児 2 型糖尿病の現状と対策について— 公的研究費による小児 2 型糖尿病に対するメトホルミン単独療法— 新規症例と既治療症例の反応性. 第 50 回日本糖尿病学会年次集会, 仙台, 2007. 5. 24
7. 勝又規行, 堀川玲子, 緒方勤, 田中敏章: 新規 SF1 変異 (C55W、 Δ 359) による副腎

- 機能正常な 46, XY 女性の 2 例. 第 80 回日本内分泌学会学術総会, 東京, 2007. 6. 16
8. 内木康博, 吉村和子, 長崎啓祐, 堀川玲子: インスリン感受性亢進による低血糖が認められた特発性低血糖症の 2 例. 第 80 回日本内分泌学会学術総会, 東京, 2007. 6. 15
 9. 堀川玲子, 内木康博, 田中敏章: 小児期発症成長ホルモン分泌不全症における成長ホルモン治療の成人への連続的移行について. 第 80 回日本内分泌学会学術総会, 東京, 2007. 6. 14
 10. 本間桂子, 堀川玲子, 田島敏広, 原林透, 平田結喜緒, 小林弘典, 横田健一, 柴田洋孝, 伊藤裕, 村井勝, 村田満, 長谷川奉延: 小児副腎癌と成人副腎癌の尿ステロイドプロフィール. 第 80 回日本内分泌学会学術総会, 東京, 2007. 6. 16
 11. 阿部清美, 堀川玲子, 内木康博, 田中敏章: ターナー症候群に対する性腺補充療法開始は何時までが適切か? 骨粗鬆症予防の視点から. 第 80 回日本内分泌学会学術総会, 東京, 2007. 6. 14
 12. 内木康博, 堀川玲子: GHS 患児に対する早期 GH 投与の効果について. KIGS/KIMS Japan National Conference, 横浜, 2007. 9. 8
 13. 吉井啓介, 阿部清美, 綾部匡之, 内木康博, 堀川玲子: 甲状腺機能低下症母体から出生した一過性新生児甲状腺機能亢進症の 1 例. 第 1 回新生児内分泌研究会学術集会, 東京, 2007. 9. 16
 14. 阿部清美, 吉井啓介, 綾部匡之, 内木康弘, 堀川玲子: アレルギー疾患用ミルクによるビオチン欠乏の 1 例. 成長ホルモン研究会, 東京, 2007. 10. 13
 15. 内木康博, 堀川玲子: 軽症骨形成不全症に対する治療法の検討. 第 41 回日本小児内分泌学会, 横浜, 2007. 11. 8
 16. 吉井啓介, 阿部清美, 内木康博, 堀川玲子: 46XXSRY 陰性の卵精巢性分化異常症の 1 例. 第 41 回日本小児内分泌学会学術集会, 横浜, 2007. 11. 8
 17. 深見真紀, 本間桂子, 長谷川奉延, 田島敏広, 花木啓一, 沼倉周彦, 藤原幾麿, 安達昌功, 堀川玲子, 緒方勤: P450 oxidoreductase (POR) 異常症: 29 例における遺伝子型—表現型解析と臨床スペクトラムの検討. 第 41 回日本小児内分泌学会学術集会, 横浜, 2007. 11. 8
 18. 加藤芙弥子, 伊達木澄人, 長谷川行洋, 堀川玲子, 望月弘, 緒方勤, 深見真紀: SHOX 遺伝子内微小欠失の同定と切断点塩基配列決定による欠失形成機序の解析. 第 41 回日本小児内分泌学会学術集会, 横浜, 2007. 11. 8
 19. 田中敏章, 横谷進, 羽二生邦彦, 島津章, 田中弘之, 藤田敬之助, 寺本明, 永井敏郎, 向井徳男, 堀川玲子: SGA 児と AGA 児における成長ホルモン短期・長期治療効果の比較. 第 41 回日本小児内分泌学会学術集会, 横浜, 2007. 11. 8
 20. 李燕虹, 内木康博, 津田正彦, 原田正平, 堀川玲子: 日本人小児思春期肥満は 3 歳未満の早期 adiposity rebound (AR) に関連する. 第 41 回日本小児内分泌学会学術集

会, 横浜, 2007. 11. 9

21. 阿部清美, 内木康博, 堀川玲子, 田中敏章: 成人ターナー症候群の骨塩量正常群と低下群の背景因子の比較検討. 第 41 回日本小児内分泌学会学術集会, 横浜, 2007. 11. 8
22. 磯島豪, 内木康博, 堀川玲子, 横谷進, 田中敏章: 日本人小児における Body Mass Index (BMI) Z 値と肥満度との相関. 第 41 回日本小児内分泌学会学術集会, 横浜, 2007. 11. 8
23. 堀川玲子, 内木康博, 綾部匡之, 吉井啓介, 阿部清美, 磯島豪, 笠原群生: ICU 重症患者における代謝異常に対する IGF-I の効果. 第 41 回日本小児内分泌学会学術集会, 横浜, 2007. 11. 8
24. 下橋京子, 南谷幹史, 皆川真規, 堀川玲子, 吉井啓介, 本名敏郎: 小児 Plummer 病の 2 例. 第 41 回日本小児内分泌学会学術集会, 横浜, 2007. 11. 9
25. 吉井啓介, 内木康博, 堀川玲子, 星野英紀, 水口浩一, 岡明, 坂本修, 大浦敏博, 重松陽介: MMACHC 遺伝子の新規変異によりメチルマロン酸血症を呈した 1 例. 第 49 回日本先天代謝異常学会, 山形, 2007. 11. 16
26. 堀川玲子, 綾部匡之, 吉井啓介, 阿部清美, 磯島豪, 重松陽介, 福田晃也, 横山智至, 森岡徹, 笠原群生: 先天性代謝性異常症における生体肝移植—適応と予後. 第 49 回日本先天代謝異常学会, 山形, 2007. 11. 16
27. 田中藤樹, 右田王介, 三原喜美恵, 岡田美智代, 笠原群生, 福田晃也, 曾根田瞬, 堀川玲子, 小崎理華, 奥山虎之: 糖原病 1b 型に対する肝移植と遺伝カウンセリング. 第 49 回日本先天代謝異常学会, 山形, 2007. 11. 16
28. 綾部匡之, 阿部清美, 吉井啓介, 内木康博, 堀川玲子: 間脳症候群における尿崩症診断と水電解質管理の問題点について. 第 18 回臨床内分泌代謝 Update, 高知, 2008. 3. 15

[シンポジウム・教育講演・講演等]

1. 堀川玲子: 思春期の子どもの性的発達 第 547 回日本小児科学会東京地方回講話会 特別講演 東京 2007 年 5 月 12 日
2. 堀川玲子: ターナー症候群におけるカウフマン療法 第 2 回静岡小児内分泌症例検討会 静岡 2007 年 5 月 19 日
3. 堀川玲子: 子どもの成長障害とその背景 —早期発見は教育現場でできる 学校保険・保健活動セミナー 宇都宮 2007 年 6 月 29 日
4. 堀川玲子: 思春期の身体成熟とその内分泌異常 第一回日本小児科学会思春期医学臨床講習会 東京 2007 年 6 月 30 日
5. 堀川玲子: 成長障害の診断と治療 青森県こどもの健康を考える会 講演会 弘前 2007 年 7 月 7 日

6. 堀川玲子: 21 水酸化酵素欠損症の治療 第 2 回小児北陸内分泌症例検討会 金沢 2007 年 7 月 29 日
7. 堀川玲子: Male hypogonadotropic hypogonadism. Luncheon Seminar at The 11th International Auxology Meeting 東京 2007 年 9 月 10 日
8. 堀川玲子: 思春期の身体成熟とその内分泌異常 思春期医学講座 東京 2007 年 9 月 20 日
9. 堀川玲子: ターナー症候群: 女の一生 Turner Workshop in Fukuoka 福岡 2007 年 9 月 29 日
10. 堀川玲子: ライフステージと GH/IGF The tenth Lilly International Symposium 大阪 2007 年 10 月 20 日
11. 堀川玲子: 子どもの成長障害とその背景 -早期発見は検診現場・教育現場でできる難病等専門研修会 山口 2007 年 10 月 24 日
12. 堀川玲子: CCS 晩期障害患者のフォロー -他科との連携をふまえて 国立成育医療センターの状況 CCS workshop in Fukuoka 福岡 2007 年 10 月 27 日
13. 堀川玲子: 新生児マススクリーニングの対象となっている内分泌疾患の臨床像 先天性甲状腺機能低下症・先天性副腎皮質過形成症 平成 19 年度先天性代謝異常・内分泌マススクリーニング基礎理論研修会 東京 2007 年 10 月 28 日
14. 堀川玲子: 成長障害 現場での早期発見の重要性 サンケイリビング ヘルス&ライフ フォーラム 東京 2007 年 10 月 29 日
15. 堀川玲子: 小児内分泌科医からみた CCS に特有なポイント CCS シンポジウム 第 41 回小児内分泌学会学術集会 横浜 2007 年 11 月 9 日
16. 2007 年 11 月 15 日 特発性低身長症の GH 治療は是か非か。 Forum on Growth Hormone Research 2008 (東京)
17. 堀川玲子: 小児生活習慣病の怖さを知っていますか? 第 9 回子供の心・体と環境を考える会学術大会 シンポジウム 東京 2007 年 11 月 23 日
18. 堀川玲子: 低出生体重性低身長症「小さく産んで大きく育てる」の是と非 高知県小児慢性疾患研究会 高知 2007 年 12 月 8 日
19. 堀川玲子: 一般小児科外来での小児内分泌疾患の診方 第一回群馬県小児内分泌・代謝症例検討会 前橋 2008 年 2 月 9 日
20. 堀川玲子: 生活習慣病の怖さを知っていますか? 平成 19 年度世田谷区学校保健講演会 東京 2008 年 2 月 28 日
21. 堀川玲子: 次世代へのメタボリック症候群連鎖を断ち切ろう 国立成育医療センター 6 周年記念公開市民講座 東京 2008 年 3 月 1 日
22. 堀川玲子: 身長からわかる子どもの健康 -成長曲線をつけてみよう サンリオ市民公開講座 横浜 2008 年 3 月 1 日
23. 堀川玲子: 低出生体重児の成長と代謝予後 近畿新生児内分泌学術講演会 京都 2008

年 3 月 22 日

腎臓科

[論文]

1. Iijima K, Kamioka I, Nozu K. Management of diarrhea-associated hemolytic uremic syndrome in children. Clin Exp Nephrol. 2008 ; 12 : 16-9.
2. Kamei K, Nakagawa A, Otsuka Y, Nakayama M, Kobayashi S, Matsuoka K, Iijima K. Chronic glomerulonephritis associated with IgG subclass deficiency. Pediatr Nephrol 2007 ; 22 : 1229-1234.
3. Nakayama M, Kamei K, Nozu K, Matsuoka K, Nakagawa A, Sako M, Iijima K. Rituximab for refractory focal segmental glomerulosclerosis. Pediatr Nephrol 2008 ; 23 : 481-485.
4. 亀井宏一, 飯島一誠, 笠原克明, 寺町昌史, 中山真紀子, 鈴木輝明, 松岡健太郎, 中川温子, 長田道夫
蛋白尿および腎機能障害で発症し, 基底膜に沿って免疫沈着を伴った巣状分節性糸球体硬化症の VUR 男児の 1 例. 日本小児腎不全学会雑誌 2007 ; 27 : 67-69.
5. 吉川徳茂, 五十嵐隆, 石倉健司, 郭義胤, 仲里仁史, 亀井宏一, 川村哲也, 中村秀文, 山本有佳里, 中西浩一, 佐古まゆみ, 日本小児腎臓病学会学術委員会小委員会「小児 IgA 腎症治療ガイドライン作成委員会」
小児 IgA 腎症治療ガイドライン 1.0 版(解説) 日本小児腎臓病学会雑誌 2007 ; 20 : 240-246.
6. 亀井宏一, 笠原克明, 寺町昌史, 中山真紀子, 鈴木輝明, 田中敏章, 飯島一誠. 日本人小児における血清シスタチン C の基準値と腎機能マーカーとしての有用性. 日本小児科学会雑誌 2007 ; 111 : 1381-1387.
7. 吉川徳茂, 五十嵐隆, 石倉健司, 郭義胤, 仲里仁史, 亀井宏一, 川村哲也, 中村秀文, 山本有佳里, 中西浩一, 佐古まゆみ, 日本小児腎臓病学会学術委員会小委員会「小児 IgA 腎症治療ガイドライン作成委員会」 小児 IgA 腎症治療ガイドライン 1.0 版(解説). 日本小児科学会雑誌 2007 ; 111 : 1466-1472.
8. 吉川徳茂, 五十嵐隆, 石倉健司, 郭義胤, 仲里仁史, 亀井宏一, 川村哲也, 中村秀文, 山本有佳里, 中西浩一, 佐古まゆみ, 日本小児腎臓病学会学術委員会小委員会「小児 IgA 腎症治療ガイドライン作成委員会」
小児 IgA 腎症治療ガイドライン 1.0 版(解説). 日本腎臓学会誌 2008 ; 50 : 31-41.
9. 飯島一誠. 大きく変わりつつある治療法/ネフローゼ症候群に対するシクロスポリン療法. 小児内科 2008 ; 39 (6) : 922-924
10. 飯島一誠. ステロイド抵抗性ネフローゼ症候群. 生涯教育シリーズ 73. 腎・泌尿器疾患診療マニュアル -小児から成人まで. 日本医師会雑誌 2007 ; 第 136 巻・特別号 (2) : S166-167
11. 飯島一誠. 診療 controversy medical decision making のために IgA 腎症に対する扁桃摘出術 慎重な立場から. 内科 2008 ; 101(1) : 165-169
12. 飯島一誠. ネフローゼ症候群の病態と治療: ネフローゼ症候群(ステロイド感受性、依存性、抵抗性)の治療. 特集 腎・尿路疾患-ABC と新たな展開. 小児科診療 2008 ; 71(2) : 219-225.
13. 飯島一誠. 薬に関する素朴な疑問/ネフローゼ症候群にシクロスポリンを投与すると

き、1日2回より1日1回投与のほうが効果が高いというのは本当ですか。小児内科 2008 ; 40(2) : 426-427

14. 亀井宏一, 飯島一誠. 腎機能検査. 小児科 2007 ; 48(3) : 337-342
15. 亀井宏一, 飯島一誠. 急性腎不全. 生涯教育シリーズ 73. 腎・泌尿器疾患診療マニュアルー小児から成人まで. 日本医師会雑誌 2007 ; 第136巻・特別号(2) : S330-331.
16. 亀井宏一, 飯島一誠. 慢性腎炎の病態と治療: 巣状糸球体硬化症. 特集 腎・尿路疾患-ABCと新たな展開. 小児科診療 2008 ; 71(2) : 253-257.
17. 亀井宏一, 飯島一誠. 小児科領域 血清 cystatin-Cによる小児の腎機能評価. Annual Review 2008 腎臓, 中外医学社 2008, p180-184.
18. 亀井宏一, 清水直樹. 小児 CHDF 施行時のモニタリング. 特集 知っておきたい小児の血液浄化療法 (CHDF) 小児外科 2008 ; 40(3) : 293-298.

[学会報告]

1. 亀井宏一. 慢性糸球体腎炎を合併した IgG サブクラス欠損症の2例. 第110回日本小児科学会学術集会, 2007. 4. 20, 京都・国立京都国際会館
2. 寺町昌史. 著明な腎血管性高血圧を呈し、腹部大動脈に主たる病変を認めた大動脈炎症候群の2女児例. 第110回日本小児科学会学術集会, 2007. 4. 20, 京都・国立京都国際会館
3. Nakayama M. Rituximab therapy for focal segmental glomerulonephritis. 第5回日韓小児腎臓セミナー, 2007. 6. 2
4. 飯島一誠. Evidenceとなる臨床研究を行うために 厚生労働科学研究小児疾患臨床研究事業「小児腎移植におけるミコフェノール酸モフェチルの有効性・安全性の確認、用法・用量の検討・確立に関する研究(H17-小児-002)」(特別講演) 第42回日本小児腎臓病学会, 2007. 6. 28, 横浜・パシフィコ横浜
5. 亀井宏一. カクテル療法を終了した小児のびまん性 IgA 腎症の最終観察での蛋白尿残存に寄与する因子の検討. 第42回日本小児腎臓病学会, 2007. 6. 28, 横浜・パシフィコ横浜
6. 中山真紀子. 巣状分節性糸球体硬化症に対する Rituximab 療法. 第42回日本小児腎臓病学会, 2007. 6. 28, 横浜・パシフィコ横浜
7. 中山真紀子. 頻回に繰り返す腸炎・脱水が糸球体硬化病変に関与した Hirschsprung 病の一例. 第42回日本小児腎臓病学会, 2007. 6. 28, 横浜・パシフィコ横浜
8. 笠原克明. 小児特発性膜性腎症に対するアンギオテンシン変換酵素阻害薬、アンギオテンシン受容体拮抗薬の有効性の検討. 第42回日本小児腎臓病学会, 2007. 6. 28, 横浜・パシフィコ横浜
9. 寺町昌史. 著明な腎血管性高血圧を呈し、腹部大動脈に主たる病変を認めた大動脈炎症候群の2女児例. 第42回日本小児腎臓病学会, 2007. 6. 28, 横浜・パシフィコ横浜
10. 中山真紀子. 多彩な免疫複合体沈着を認め、診断に苦慮した移植後 de novo 腎炎の1例. 第11回移植腎病理研究会, 2007. 7. 7
11. 中山真紀子. 原発性巣状分節性糸球体硬化症に対する Rituximab 療法. 第8回東京腎炎・ネフローゼ研究会, 2007. 7. 21
12. Kamei K. Long Term Prognosis of Severe Childhood IgA Nephropathy after Combined Therapy. 14th Congress of the Internal Pediatric Nephrology Association. 2004. 9. 3, Budapest, Hungary.
13. Nakayama M. Rituximab therapy for refractory FSGS. 14th Congress of the Internal Pediatric Nephrology Association. 2004. 9. 3, Budapest, Hungary.
14. 亀井宏一. 生体肝移植前に術前透析を施行したメチルマロン酸血症の6症例の経験. 第29回日本小児腎不全学会, 2007. 9. 28, ホテル一畑, 島根

15. 白川利彦. 小児劇症肝不全 9 症例に対する血液浄化療法／人工肝補助の経験. 第 29 回日本小児腎不全学会, 2007. 9. 28, ホテル一畑, 島根
16. 寺町昌史. 常染色体劣性多発性嚢胞腎で、生体肝腎同時移植を行った 4 歳女児例. 第 29 回日本小児腎不全学会, 2007. 9. 28, ホテル一畑, 島根
17. 笠原克明. Sjögren 症候群を合併した Tubulo-interstitial nephritis and uveitis の 1 女児例. 御茶ノ水カンファレンス, 2007. 10
18. 中山真紀子. 経過中に急性腎不全に陥り、尿細管腔に石灰沈着を認めたステロイド抵抗性 FSGS の 1 例. 第 12 回小児腎東京神奈川の会, 2007. 10. 27
19. Kamei K. Long Term Prognosis of Severe Childhood IgA Nephropathy after Combined Therapy. The American Society of Nephrology, Renal Week 2007. 2007. 10. 31-11. 4, Moscone Center, San Francisco, California, USA.
20. Nakayama M. Rituximab therapy for refractory FSGS. The American Society of Nephrology, Renal Week 2007. 2007. 10. 31-11. 4, Moscone Center, San Francisco, California, USA.
21. 亀井宏一. 常染色体劣性多発性嚢胞腎で生体肝腎同時移植を行った 4 歳女児例 第 41 回日本臨床腎移植学会, 2008. 1. 24, 館山寺温泉遠鉄ホテルエンパイア・ホテル九重, 浜

[院外講演]

1. 亀井宏一
 テーマ：難治性ネフローゼの治療.
 日時：2007 年 5 月 13 日
 場所：キュリアン（品川区立総合区民会館）5F
 主催：東京腎炎ネフローゼ児を守る会
2. 亀井宏一
 テーマ：難治性ネフローゼの最近の知見 及び 小児における急性血液浄化について
 日時：2007 年 5 月 31 日
 場所：つくば国際会議場
 主催：茨城県小児科医会
3. 亀井宏一
 テーマ：乳幼児の急性血液浄化
 日時：2007 年 8 月 27 日
 場所：藤田保健衛生大学病院
 主催：藤田保健衛生大学外科 橋本教授

[院内講演]

1. 2007 年 4 月 17 日 7 東 腎移植勉強会
2. 2007 年 5 月 10 日 10 東 腎移植勉強会
3. 2007 年 6 月 6 日 ICU 腎移植勉強会
4. 2007 年 10 月 18 日 7 東 腎移植勉強会
5. 2007 年 10 月 25 日 ICU ミニレクチャー「乳幼児の急性血液浄化」
6. 2008 年 1 月 30 日・2 月 1 日 8 東 腎移植勉強会

資料：2007年4月－2008年3月 血液浄化症例数

	HD	血漿交換	白血球除 去	腹水濃 縮	急性血液浄 化	合計
2007年4月	53	0	0	0	79	132
5月	41	0	2	0	34	77
6月	40	3	3	1	45	92
7月	44	9	0	0	23	76
8月	31	0	0	0	0	31
9月	39	0	0	0	0	39
10月	37	3	0	0	4	44
11月	37	0	4	0	15	56
12月	37	2	4	0	30	73
2008年1月	39	0	3	0	2	44
2月	39	3	8	0	10	60
3月	40	13	1	0	12	66
合計	477	33	25	1	254	790

神経内科

[原著論文]

1. Ichiyama T, Suenaga N, Kajimoto M, Tohyama J, Isumi H, Kubota M, Mori M, Furukawa S: Serum and CSF levels of cytokines in acute encephalopathy following prolonged febrile seizures. Brain Dev 2008;30:47-52.
2. Suenaga N, Ichiyama T, Kubota M, Isumi H, Tohyama J, Furukawa S: Roles of matrix metalloproteinase-9 and tissue inhibitors of metalloproteinases 1 in acute encephalopathy following prolonged febrile seizures. J Neurol Sci. 2008;266:126-130.
3. Kubota M, Takahashi Y: Steroid-Responsive Chronic Cerebellitis With Positive Glutamate Receptor $\delta 2$ Antibody J Child Neurol 2008;23: 228-230.
4. Kubota M, Goishi K, Takemura S, Kawai K, Arai N: Early hemispherotomy in a patient with multilobar cortical dysplasia with intractable seizure: Clinical-neurophysiological study. European Journal of Paediatric Neurology (in press)
5. Abe Y, Negasawa T, Monma C, Oka A: Infantile botulism caused by Clostridium

butyricum type E toxin. *Pediatr Neurol* 2008;38:55-57.

6. 松岡貴子、落合里衣、小出彩香、佐々木匡子、久保田雅也、十河剛、乾あやの、藤澤知雄、星野健、森川康英：劇症肝炎の血漿アンモニア値と脳波および意識レベルの乖離について *臨床脳波* 2007;49:207-211.
7. 久保田雅也：熱性けいれんとサイトカインの関係-川崎病は何故熱性けいれんを起こしにくいのか- 東京都病院経営本部臨床研究報告書 2007;2005:541-544.
8. 小出彩香、久保田雅也：骨折のリスクのある重症心身障害児に対する Pamidronate の効果についての研究 東京都病院経営本部臨床研究報告書. 2008;2006:611-615.
9. 田中哲、深井善光、久保田雅也、稗田潤、久米泉美：子どもの虐待の発見と防止のための診療科・職種・病院間の連携に関する研究 東京都病院経営本部臨床研究報告書. 2008;2006:71-74.
10. 村上綾子、篠崎昌子、玉川公子、近藤信哉、久保田雅也、高橋幸利：ムンプス髄膜炎に合併した opsoclonus myoclonus ataxia syndrome の1例小児科診療 2008;71:549-552.
11. 長澤哲郎：脳性麻痺患者におけるバクロフェン髄注療法 *脳* 21 2007;10:366-369.
12. 長澤哲郎：先天性無痛無汗症 *小児内科* 2007;39:2065-2067.
13. 長澤哲郎、岡 明：けいれん群発型HHV-6脳症の概念と位置づけ *小児科学会雑誌* 2008 ; 112 : 448-457
14. 長澤哲郎：手足口病による脊髄炎 *小児内科* 2008;40:571-572.
15. 平孝臣、夫敬憲、長澤哲郎：バクロフェン髄腔内投与療法 長澤哲郎監修「脳性麻痺」症例集 2008
16. 阿部裕一：寝過ぎの弊害. *小児内科* 2008;40:78-80

[総説]

1. 久保田雅也：多発性硬化症 小児中枢神経疾患の画像診断 2008 小児内科増刊号 2007;39:570-574.
2. 星野英紀：細菌性髄膜炎 小児中枢神経疾患の画像診断 2008 小児内科増刊号 2007;39:292-295.
3. 阿部裕一：赤ちゃんにハチミツはいけないっていうけれど、ハチミツ以外の原因も・・・【ボツリヌス症】. *チャイルドヘルス* 2007;10:760-762.
4. 阿部裕一：異所性灰白質. 小児中枢神経疾患の画像診断 2008. 小児内科増刊号 2007;39:210-212.

[学会発表]

1. Tanuma N, Miyata R, Hayashi M, Kubota M: Cerebrospinal fluid levels of oxidative stress markers in patients with prolonged/ repetitive febrile seizures. 3rd

Congress of Asian Society for Pediatric Research, 2007.10.21 Tokyo

2. 長澤哲郎、星野英紀、水口浩一、久保田雅也、井原哲、師田信人: 急性脳症後の痙縮にバクロフェン髄注療法とボツリヌス毒素療法の併用が有効であった 3 歳男児例～新しい痙縮治療についての検討～ 第 51 回多摩小児神経懇話会 2007.11.17 府中
3. 小田優子、豊泉愛、鈴木里伊奈、小出彩香、久保田雅也: 6 才以上の熱性けいれん(late fc)の臨床的特徴 第 49 回日本小児神経学会総会 2007.7.5 大阪
4. 鈴木里伊奈、豊泉愛、小出彩香、久保田雅也: 腎炎治療中の posterior reversible encephalopathy syndrome (PRES)における脳波の経過について第 49 回日本小児神経学会総会 2007.7.5 大阪
5. 富永牧子、豊泉愛、鈴木里伊奈、小出彩香、久保田雅也、市山高志、田沼直之、林雅晴: HHV-6 脳症の発症機序と治療について第 49 回日本小児神経学会総会 2007.7.7 大阪
6. 久保田雅也、豊泉愛、鈴木里伊奈、小出彩香: 川崎病が熱性けいれんを起こしにくいのは何故か---サイトカインについての検討 第 49 回日本小児神経学会総会 2007.7.7 大阪
7. 豊泉愛、鈴木里伊奈、小出彩香、久保田雅也、小沢浩、大澤麻記、市山高志: 細菌性髄膜炎の経過と髄液サイトカインについて 第 49 回日本小児神経学会総会 2007.7.7 大阪
8. 小出彩香、中舘尚也、鈴木里伊奈、富永牧子、豊泉愛、久保田雅也: 動眼神経麻痺を呈した急性リンパ性白血病の一例 一他の眼症状を来たす疾患と比較して一 第 49 回日本小児神経学会総会 2007.7.7 大阪
9. 清水教一、井上美沙子、富士川善直、水口浩一、青木継稔: 怠薬により精神・神経症状が出現した Wilson 病症例に関する検討 第 49 回日本小児神経学会総会 2007.7.5 大阪
10. 遠山潤、齋藤なか、赤坂紀幸、須田昌司、久保田雅也、小出彩香、加藤光広: microlissencephal の 2 症例 第 49 回日本小児神経学会総会 2007.7.5 大阪
11. 田沼直之、宮田理英、林雅晴、久保田雅也: 有熱時けいれん重積/群発における髄液酸化ストレスマーカー 第 49 回日本小児神経学会総会 2007.7.7 大阪
12. 阿部裕一、水口浩一、長澤哲郎、岡明: 初期診断で良性乳児けいれんと考えられた患者の治療経過と予後 第 49 回日本小児神経学会総会 2007.7.7 大阪
13. 水口浩一、木村育美、阿部裕一、長澤哲郎、岡明: 小児 Guilla-Barre 症候群の臨床的検討-電気生理学的検査を中心に 第 49 回日本小児神経学会総会 2007.7.7 大阪
14. 小沢浩、有本潔、木実谷哲史、久保田雅也、山田裕一: 乳児期における Lesch-Nyhan 症候群の発達について 第 49 回日本小児神経学会総会 2007.7.7 大阪
15. 水口浩一、星野英紀、長澤哲郎、久保田雅也: 呼吸不全にて急性発症した両側横隔神経麻痺の女児例 第 48 回日本小児神経学会関東地方会 2008.3.8 東京

16. 久保田雅也、宮島祐、宮地幸： ganciclovir 投与により難聴が改善した先天性サイトメガロウイルス感染症 7 才男児 第 19 回小児脳機能研究会（第 37 回日本臨床神経生理学会サテライトシンポジウム）2007. 11. 21 宇都宮
17. 久保田雅也： Lennox-Gastaut 症候群およびミオクロニー失立てんかんは必ずしも全般性ではない 第 41 回日本てんかん学会 2007. 11. 1 福岡
18. 久保田雅也： 脳磁図でわかること 第 5 回お茶の水てんかんカンファレンス 2008. 3. 7 東京
19. 木村有希、小林充、稲富淳、堀尾恵三、三牧正和、田沼直之、宮田理英、林雅晴、久保田雅也： 前頭葉優位の病変を認めた痙攣重積型急性脳症の一例. 第 47 回日本小児神経学会関東地方会 2007. 9. 8 東京
20. 柏井洋文、唐崎元一郎、水野葉子、雨宮馨、鈴木理伊奈、横山晶一郎、後藤正博、久保田雅也、渋谷和彦、田沼直之、宮田理英、林雅晴： 視床枕と小脳に病変を認めた ADEM の症例 第 47 回日本小児神経学会関東地方会、2007. 9. 8 東京
21. 長澤哲郎： 中澤裕美子他「排尿障害を主訴に来院した急性散在性脳脊髄炎の 1 例」に対する指定発言. 第 551 回日本小児科学会東京都地方会、2007. 10. 13 東京
22. 長澤哲郎、星野英紀、水口浩一、久保田雅也： 皮膚筋炎の治療後に発症した小脳萎縮とオリブ核の信号異常を示す女性例 第 13 回小児神経症例検討会 2008. 2. 9 山形
23. 長澤哲郎、星野英紀、水口浩一、久保田雅也、井原哲、師田信人： 急性脳症後の痙縮にバクロフェン髄注療法とボツリヌス毒素療法の併用が有効であった 3 裁断事例～新しい痙縮治療についての検討 第 51 回多摩小児神経懇話会 2007. 11. 17 府中
24. 長澤哲郎： 小児痙縮治療～バクロフェン髄注療法を中心に 第 10 回日本小児神経学会北海道地方会 2007. 10. 20 旭川
25. 長澤哲郎、水口浩一、阿部裕一、岡 明、師田信人： てんかん焦点切除術が有効であった AVM 出血後難治てんかんの 1 例 第 49 回日本小児神経学会 2007. 7. 5 大阪
26. 長澤哲郎、島田姿野、水口浩一、阿部裕一、岡 明： 経過中に発疹を認めなかった「けいれん群発型 HHV-6 脳症」の 1 例 第 49 回日本小児神経学会 2007. 7. 5 大阪
27. 長澤哲郎、水口浩一、阿部裕一、岡 明： けいれん群発型 HHV-6 脳症の長期経過と予後不良因子の検討 第 110 回日本小児科学会総会 2007. 4. 22 京都
28. 阿部裕一、水口浩一、長澤哲郎、岡 明： 初期診断で良性乳児けいれんと考えられた患者の治療経過と予後. 第 49 回小児神経学会学術集会 2007. 7. 5 大阪
29. 阿部裕一、水口浩一、長澤哲郎、岡 明： クリーゼで発症した全身型重症筋無力症の女児例. 第 110 回日本小児科学会学術集会. 2007. 4. 20 京都